令和４年　12月　8日

# 令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

## 【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第４学年 | 国語　４５人 | 算数　４５人 | 理科　４５人 |
| 第５学年 | 国語　６６人 | 算数　６６人 | 理科　６６人 |

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

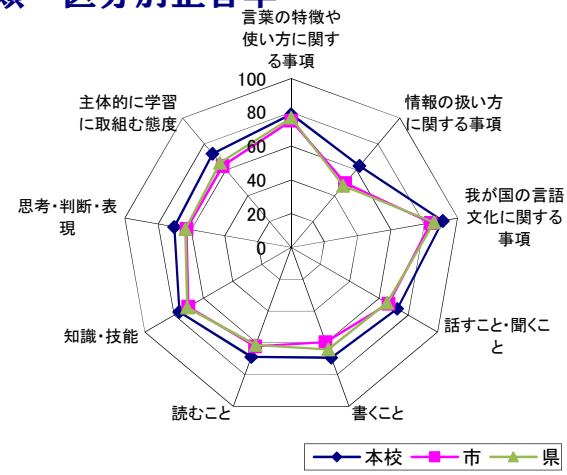
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立西が岡小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 78.9 | 75.1 | 76.7 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 63.0 | 49.6 | 47.8 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 91.1 | 84.0 | 85.9 |
| | 話すこと･聞くこと | 72.4 | 66.5 | 65.5 |
| | 書くこと | 69.4 | 59.6 | 64.2 |
| | 読むこと | 68.9 | 62.2 | 61.5 |
| 観点 | 知識･技能 | 76.3 | 70.2 | 71.1 |
| | 思考･判断･表現 | 70.2 | 62.9 | 63.6 |
| | 主体的に学習に取組む態度 | 72.4 | 63.0 | 65.5 |




## ★指導の工夫と改善

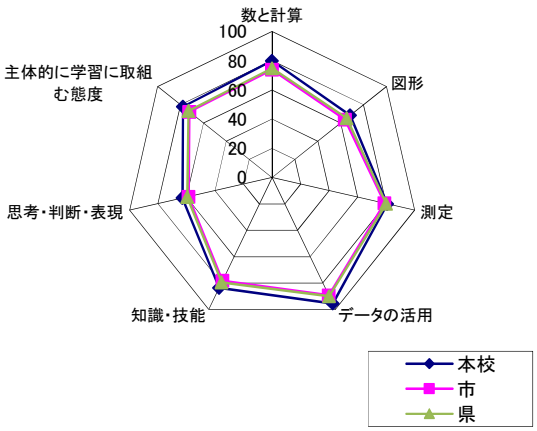
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は，県の平均より高い。<br>○第3学年に配当されている漢字については，読む問題も書く問題も，県の平均より正答率が高い。<br>●文章中から主語や述語を選ぶ問題では，正答率が県の平均より低い。文がどのように組み立てられているか理解する力が十分とは言えない。 | ･漢字練習については，今後もAIドリルや問題集，問題プリントなどで繰り返し練習させ，習熟を図る。熟語調べや短文作りなどを取り入れながら，習熟を図っていく。<br>･文の中での語句の役割や，語句相互の関係に気を付けて，文章を読んだり書いたりする機会を取り入れ，主語と述語が照応できるようにする。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は，県の平均よりかなり高い。<br>○国語辞典に出ている例文を参考に言葉の意味を考える問題では，正答率が県の平均よりかなり高い。<br>○情報と情報との関係について理解し，中心となる語や文を見付けて要約したり，話し手が伝えようとしていることの中心を捉えたり問題では，正答率が県の平均よりかなり高い。 | ･今後も身近な場所に辞書を置き，進んで活用できるようにする。<br>･朝会での校長講話や担任からの話など，話し手が伝えようとしていることの中心を考えながら話を聞くよう促し，聞いて理解する力をさらに高める。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は，県の平均より高い。<br>○「語」という漢字の「へん」は何か答える問題では，正答率が県の平均より高い。 | ･漢字の指導をする際には，部首を意識させた指導を継続する。<br>･漢字を練習する際には，同じ部首をもつ漢字を集めさせたり，部首がもつ意味をから何に関する漢字なのか見当をつけさせたりするなど，意味を考えながら習得できるようにする。 |
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じである。<br>○話し手が伝えようとしていることの中心を捉えたり，話の中心を明確にするための工夫を捉えたりする問題では，県の平均より正答率がやや高い。。<br>●相手に伝わるように，理由を挙げながら話す問題では，正答率が県の平均より低い。相手の考えをを踏まえて理由を選び，よく伝わるように話す力が十分とは言えない。 | ･国語の学習だけでなく，いろいろな場面で，話を聞いて自分の考えをもち，伝える場面を取り入れるようにする。その際，相手が知らないことについては丁寧に理由付けをしたり，相手にとって理解しやすい事例を挙げたりできるよう，相手に伝わるような話の構成を考えるよう助言する。 |
| 書くこと | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じか，やや高くなっている。<br>○2つの意見を比べ，どちらが良いと思うか自分の考えを明確にして文章を書く問題では，正答率が県の平均より高い。<br>●段落の役割について理解し，自分の考えをいくつかの段落に分けて文章を書く問題では，正答率が県の平均よりやや低い。段落と段落との関係に気を付けて文章の構成を考える力が十分とは言えない。 | ･物語や説明文の読み取りの際，段落の役割について確認するようにする。<br>･構成に気を付けて文章で表現する機会を設ける。その際，「冒頭部ー展開部ー終結部」などの文章の展開や文章の種類に応じて，それぞれの部分に何を書くのか，それらがどのようにつながるのかを意識させ，自分の考えが明確になるよう助言する。 |
| 読むこと | 平均正答率は，県の平均より高い。<br>○登場人物の気持ちを叙述を基に捉えながら物語文を読んだり，叙述をもとに段落の内容を捉えながら説明文を読んだりする問題では，正答率がいずれも県の平均より高い。<br>●叙述を基に物語の場面を分ける問題では，県の平均より高かったものの，正答率は3割程度であった。 | ･感じたことや考えたことを共有したり，気持ちや様子が表れている表現に着目したりながら文章を読み，叙述に即した読み取りができるように支援していく。<br>･物語の読み取りでは，場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちから，情景を想像させ，場面を分けることができるよう支援していく。 |

# 宇都宮市立西が岡小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 79.9 | 73.8 | 74.8 |
| | 図形 | 68.4 | 63.7 | 65.3 |
| | 測定 | 80.9 | 78.9 | 80.1 |
| | データの活用 | 95.6 | 89.3 | 90.0 |
| 観点 | 知識・技能 | 83.8 | 78.3 | 79.5 |
| | 思考・判断・表現 | 62.9 | 58.6 | 59.5 |
| | 主体的に学習に取組む態度 | 77.8 | 72.3 | 73.1 |




## ★指導の工夫と改善

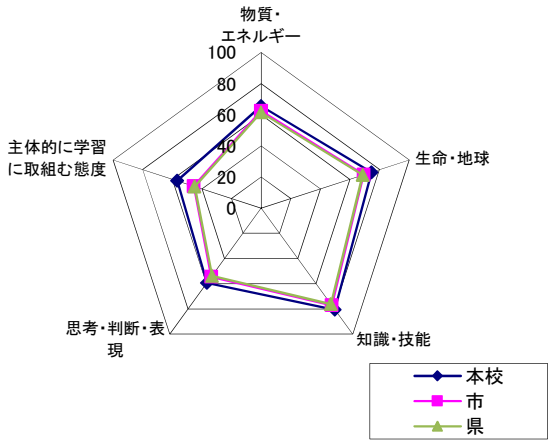
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と計算 | 平均正答率は，県平均より高い。<br>○除法（余りあり）を適用して，文章問題の正しい答えを求める問題では，正答率が県平均より高い。<br>●3桁＋3桁＝4桁（繰り上がり3回）の計算問題では，正答率が県平均よりやや低い。桁数の多い加法において，繰り上がりに気を付けて計算する力が十分とは言えない。 | ・今後もAIドリルや問題集，問題プリントなどで繰り返し練習させ，習熟を図る。<br>・繰り上がりの回数が複数回になることで，計算に誤りが生じているため，計算問題を繰り返し行い，習熟を図る。 |
| 図形 | 平均正答率は，県平均より高い。<br>○円の半径とコンパスの使い方についての問題では，正しく理解している児童が多く，正答率が県平均より高い。<br>●大きさが同じ6個のボールがぴったり入っている箱の横の長さから，ボールの半径を求める問題では，正答率が県平均より低い。球の直径や半径の理解に関して課題がある。 | ・こま作りやコンパスを使った円による模様作りなど，作図や観察，分類，構成などの活動を積極的に取り入れ，円の半径や直径の性質に気付かせるようにする。<br>・球の模型を操作したり観察したりすることを通して，球の性質について理解を深めさせる。<br>・ボールを直方体などの立体で挟み，球の直径や半径の大きさを調べる活動を取り入れ，理解を深めさせる。 |
| 測定 | 平均正答率は，県平均よりやや低い。<br>○2つの時刻の間の時間を求める問題では，正答率が県平均より高い。<br>●身近にあるものの重さを推察して，適切な単位を使って表す問題では，正答率が県平均より低い。「1g」や「1kg」，「1t」など，基本的な量の大きさについての感覚に課題がある。 | ・時刻や時間を求めることについては，今後も必要に応じて取り上げ，日常生活で生かせるよう支援していく。<br>・身の周りにどんな単位が使われているかを調べる活動を行うなど，日常生活のさまざまな場面をもとに重さの単位を見つけさせ，身の周りに算数が活用されていることを実感させる。<br>・日常生活の重さに関する経験や，「1g」や「10g」，「100g」，「1kg」など単位量の具体物をもち上げる体験などを通して，基本的な量の重さについての感覚を育てるようにする。 |
| データの活用 | 平均正答率は，県平均より高い。<br>○棒グラフを使った問題では，棒グラフの読み取りが正しくできており，正答率が県平均より高い。 | ・いろいろな教科や活動の場で，身のまわりの事象について表やグラフを用いてポスターにまとめたり，考察したりする活動を取り入れ，理解を深めるようにする。 |
| | | |

# 宇都宮市立西が岡小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 65.6 | 62.5 | 61.5 |
| | 生命・地球 | 74.5 | 69.2 | 68.6 |
| 観点 | 知識・技能 | 80.7 | 77.2 | 76.3 |
| | 思考・判断・表現 | 59.4 | 54.4 | 53.7 |
| | 主体的に学習に取組む態度 | 56.7 | 45.5 | 44.9 |




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|---|---|---|
| 物質・エネルギー | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じ程度である。<br>○風で動く車の動き方は風の向きや強さによって決まることや，物の重さは置き方や形を変えても変化しないことを理解している児童は9割を超え，県の正答率より高い。<br>●複数の糸電話を使って音の伝わり方を調べる実験で，結果をもとに，糸をつまんだのはどこか考える問題では，正答率が県の平均より低い。音の伝わり方は物の震え方と関係があることについて理解が十分とは言えない。<br>●自由に動ける磁石の極は南北を指すことを正しく理解できた児童の正答率は，県の平均より低い。磁石には形や大きさが違っていてもいつも南北の向きに止まる性質があることへの理解が十分とは言えない。 | ・今後も，実験や観察を通して，差異点や共通点を基に主体的に問題を解決できるよう指導を工夫していく。<br>・複数の糸電話を使い，糸の途中をつまんで話す実験をいろいろなパターンで行い，音の伝わり方について理解を深めるようにする。<br>・方位磁針を使って東西南北を調べたり，自作の方位磁針を作ったりする活動を通して，磁石の性質についての理解を深めるようにする。 |
| 生命・地球 | 平均正答率は，県の平均よりやや高い。<br>○ホウセンカの育つ順と草たけの関係を正しく結び付けられた児童の正答率は，県の平均よりも高い。<br>○昆虫の育ち方や体のつくりについて十分理解しており，ほとんどの児童が幼虫という用語を理解できている。また，完全変態や不完全変態の昆虫を区別できた児童の正答率は，県の平均よりも高い。<br>○●日かげのほうが涼しく感じる理由や，かげふみ遊びで太陽を背にして逃げた方が影を踏まれにくい理由を説明できる児童の正答率は，県の平均より高いものの約半数である。実験の結果やその理由を自分の言葉で表すことに課題がある。<br>●太陽の動きと影の位置を正しく理解している児童の正答率は，県の平均より高いものの，50%以下と低い。太陽の反対側に影ができることについての理解が十分とは言えない。 | ・実際に栽培や飼育を行い，その都度，観点を示し観察させたことで知識が定着した。今後も継続して指導していきたい。<br>・実験の結果やその理由，わかったことなどを，キーワードを入れて文章で表現する活動を取り入れ，理解を深めるようにする。<br>・日時計を作ったり，かげふみ遊びをしたり体験を通して，太陽とかげの位置を感覚的に理解できるようにする。 |
| | | |

# 宇都宮市立西が岡小学校 第４学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」で肯定的な回答をした児童の割合は84.5%，「自分の行動や発言に自信をもっている」で肯定的な回答をした児童の割合は75.6%であり，どれも県平均より高い。このことから，児童の自己有用感の高さが認められる。「自分はクラスの人の役に立っていると思う」で肯定的な回答をした児童の割合は80.0%で，学級に貢献できていると感じている児童が多いので，今後も良好な学級経営に反映させたい。

○「自分には，よいところがあると思う」で肯定的な回答をした児童の割合は93.3%で，県の平均より高い。また，「自分は家族の大切な一員だと思う」で肯定的な回答をした児童の割合は100%であり，児童の自己肯定感の高さが認められる。学校と家庭が連携して，児童の努力や成長を見守り，よさを認め伸ばす指導を推進していきたい。

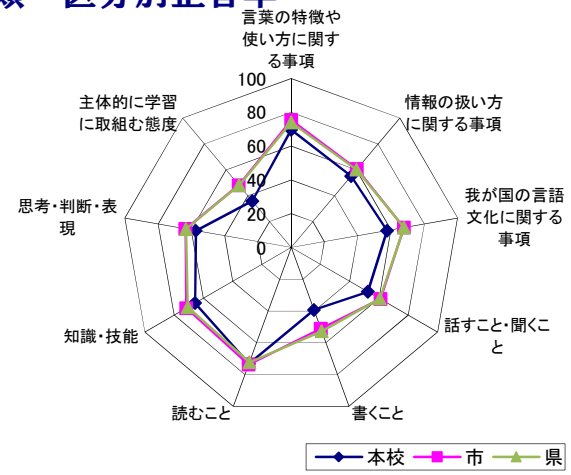
●「自分は勉強がよくできる方だと思う」で肯定的な回答をした児童の割合は77.8%で，県の平均より高い。しかし，「国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いている」，「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」で肯定的な回答をした児童の割合は，どちらも県の平均より低かった。このことから，自分の考えを表現することを苦手とする児童が多い傾向がみられる。今後は，授業に自分の考えを表現する場をより多く設定し，友達との話合い活動を通して，自分の考えを深め，その考えを自信をもって表現できるように支援していきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」，「新聞を読んでいる」で肯定的な回答をした児童の割合は，どちらも県の平均より低かった。このことから，児童が社会の出来事や情勢に興味をもてていないことが分かる。主に，国語や社会の学習を通して，児童が社会全体のことにまで興味・関心を広げられるように，学習内容を工夫していきたい。

# 宇都宮市立西が岡小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 69.7 | 75.4 | 74.1 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 55.1 | 60.5 | 60.2 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 57.6 | 67.7 | 67.8 |
| | 話すこと･聞くこと | 52.4 | 61.0 | 60.7 |
| | 書くこと | 39.4 | 51.2 | 52.8 |
| | 読むこと | 73.2 | 73.7 | 72.4 |
| 観点 | 知識･技能 | 65.7 | 71.7 | 70.6 |
| | 思考･判断･表現 | 57.3 | 63.5 | 63.2 |
| | 主体的に学習に取組む態度 | 35.8 | 48.2 | 48.1 |




## ★指導の工夫と改善

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

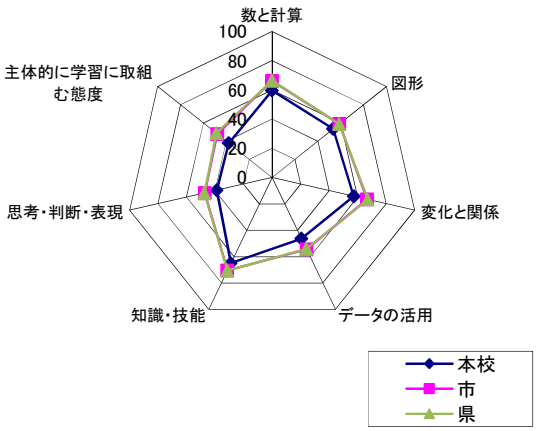
| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じである。<br>〇第4学年に配当されている漢字を読む問題では，ほぼ全員が正しく答え，県の平均とほぼ同じであった。<br>●漢字を書く問題や，段落構成を整えて文章を書く問題では，正答率が県の平均よりかなり低い。使い方に応じて漢字を書くことや，文章の構成や展開について理解することに課題がある。 | ･漢字練習については，今後もAIドリルや問題集，問題プリントなどで繰り返し練習させ，習熟を図る。漢字を書く課題に繰り返し取り組ませる。<br>･文章を読んだり書いたりするときには，文章の組立てや論の進め方に注意させるようにする。また段落構成や文字数など，条件に合わせて文章を書く機会を作るようにする。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じか低い。<br>〇情報を読み取り，中心となる語や文を見つける問題では，正答率が県の平均より高い。<br>●漢字辞典の使い方に関する問題では，正答率が県の平均より低い。画数や部首など漢字に関しての理解が十分とは言えない。<br>●情報をもとに理由や事例を挙げながら話す問題では，正答率が県の平均より低い。情報と情報の関係について理解することに課題がある。 | ･漢字を練習する際には，読み方や書き順だけでなく，画数や部首への関心を高めるよう支援する。<br>･朝の学習や自習の時間などで漢字辞典を活用する機会を意図的に取り入れ，使い方に慣れるようにする。<br>･問題の意図を正しく読み取り，自分の考えを分かりやすく明確に伝えられるよう繰り返し指導する。<br>･国語だけでなくいろいろな教科や活動の場面で，ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり明らかにしたりするなど，様々な情報の中から原因と結果の関係を見出し，結び付けて捉えることができるよう支援する。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は，県の平均よりやや低い。<br>●文章に合うことわざを選ぶ問題では，正答率が県の平均より低い。ことわざや故事成語などへの関心が低い。 | ･かるた遊びをしたり教訓として紹介したりするなどして，ことわざや故事成語に触れる機会を作り，それらに込められたものの見方や感じ方について考えさせるようにする。 |
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は，県の平均より低い。<br>〇話を聞いて，話し手の工夫を捉える問題については概ね理解しており，県の平均とほぼ同じであった。<br>●話し手の意図をとらえながら話を聞いたり，共通点や相違点に着目し自分の考えを話したりする問題では，正答率が低い。話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり，話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりすることに課題がある。 | ･メモを取ったり要約したりしながら話を聞く機会を取り入れ，聞いて理解する力を育てる。<br>･話の目的は何か，自分に伝えたいことは何か，共に考えたいことは何かなどを踏まえて話を聞くようにする。さらに，話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり，共通した内容や納得した事例をあげたりして自分の考えをまとめることができるよう，国語の学習のみならず，いろいろな教科や活動の場面で支援する。 |
| 書くこと | 平均正答率は，県の平均より低い。<br>●時間配分がうまくいかず，最後の問題までたどり着けずに，無回答の児童が多かった。<br>●情報を正しく理解し，条件に合わせて自分の考えを文章に書く問題では，正答率が県の平均よりかなり低かった。条件に合わせて，自分の考えが伝わるように工夫して書き表すことに課題がある。 | ･資料から読み取ったことを整理し，自分の立場を明確にして文章を書く活動や，文字数や段落構成などの条件に合わせ，自分の考えをまとて文章を書く活動などを，国語のみならず，いろいろな教科や活動の場面で設け，書く力を育てる。<br>･目的や意図に応じて，簡単に書く部分と詳しく書く部分を決めたり，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，書き表し方の工夫について繰り返し指導する。 |

| | | |
|---|---|---|
| 読むこと | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じである。<br>〇叙述をもとに説明文の内容を捉える問題は，正答率が県の平均とほぼ同じくらいであった。<br>●物語を読んで，叙述をもとに，登場人物の気持ちを捉える問題では，正答率は半数以下で，県の平均よりやや低い。登場人物の行動や会話，情景など暗示的な表現から登場人物の心情を捉えることに課題がある。 | ・読書や音読を通して，文章中の大切な言葉や文を着目し，情景を想像する力をつけていく。<br>・物語を読み取る際には，直接的に表現されているものだけでなく，登場人物相互の関係に基づいた行動や会話，情景などを通して暗示的に表現されているものに着目させ，想像を豊かにしながら読み進められるよう支援していく。 |

# 宇都宮市立西が岡小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 59.6 | 66.1 | 66.4 |
| | 図形 | 53.5 | 58.9 | 58.8 |
| | 変化と関係 | 57.3 | 66.6 | 67.0 |
| | データの活用 | 46.2 | 54.4 | 54.2 |
| 観点 | 知識・技能 | 64.8 | 70.4 | 70.6 |
| | 思考・判断・表現 | 38.8 | 47.2 | 47.5 |
| | 主体的に学習に取組む態度 | 37.9 | 47.8 | 48.8 |




## ★指導の工夫と改善

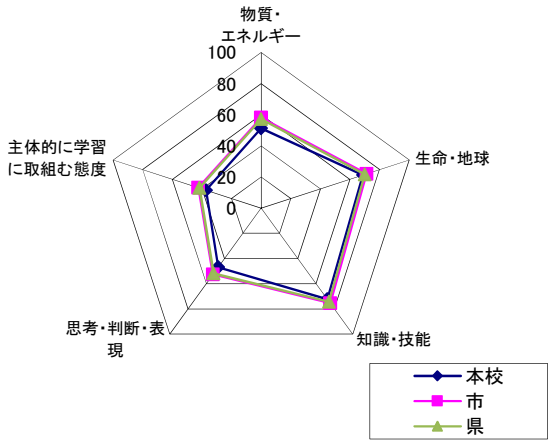
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と計算 | 平均正答率は，県の平均と比べ全体的に低い。<br>○小数第一位×整数の計算では，正答率が県の平均よりも高い。<br>●小数の加法の仕方を説明した文章をもとに，同分母の分数の加法の仕方を説明する問題では，県の平均よりも正答率が低い。示された考えをもとに類題について考え文章で説明する力がついていない。また，単位分数の個数に着目することによって，整数の場合と同じように加法や減法の計算することができるという理解が十分ではない。 | ・今後もAIドリルや問題集，問題プリントなどで繰り返し練習させ，習熟を図る。<br>・自分の考えを図や言葉で表すような学習を，授業で意識的に取り入れる。<br>・既習事項をもとに考える活動を多く取り入れる。 |
| 図形 | 平均正答率は，県の平均と比べ全体的に低い。<br>○直方体のある面に平行な辺を求める問題では，正答率が県の平均よりも高い。<br>●平行四辺形の作図の問題では，正答率が県の平均よりも低い。直線の位置関係や辺の長さなど平行四辺形の性質や，定規やコンパスによる作図の仕方について理解が十分とは言えない。 | ・今後も，直方体立方体の模型を観察したり，見取図や展開図と照応させたりするなどして，辺や面の平行，垂直の関係など図形の性質について理解を深めるようにする。<br>・図形の特徴について理解できるよう繰り返し指導し，作図する機会を多く設ける。 |
| 変化と関係 | 平均正答率は，県の平均と比べて全体的に低い。<br>○伴って変わる2つの数量の一方の値から，もう一方の値を求める問題の正答率は，県と比較するとやや低いが，正答率は84，8%と高めである。<br>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では，正答率が県の平均よりも低い。伴って変わる2つの数量の間にある変化や対応の特徴に気付き，式に表すことに課題がある。 | ・授業や朝の学習，宿題等で，類題に取り組ませる機会を多く設ける。<br>・具体物の操作から数量の変化を表に表し，2つの数量の変化のきまりや規則性に児童自ら気付けるように，話合いの場を設定し解決させる。<br>・伴って変わる2つの数量の関係の着目させ，児童が自ら幾つかの数値について計算するなどしてデータを集める活動を充実させ，式に表せるようにする。 |
| データの活用 | 平均正答率は，市の平均と比べて全体的に低い。<br>○2つの折れ線グラフから，必要なことを読み取る問題の正答率は，県の平均よりは低いものの比較的高い値を示している。<br>●二次元表の読み方を理解する問題では，正答率が県の平均よりも低い。二つの観点から分類整理された二次元表を読み取る力が十分とは言えない。 | ・算数に限らず，他教科との関連を図り，見方や考え方を育てる。<br>・複数の折れ線グラフを組み合わせたものや，折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたものなど，発展的なものも取り上げ，見方や考え方をさらに育てる。<br>・二つの観点の組み合わせから分類整理された表を読んだり，集めたデータを二つの観点から分類整理して表を用いて表したりする活動を，いろいろな教科や活動で取り入れるようにする。 |
| | | |

# 宇都宮市立西が岡小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 51.2 | 58.1 | 57.2 |
| | 生命・地球 | 68.8 | 71.1 | 70.0 |
| 観点 | 知識・技能 | 72.3 | 75.5 | 74.4 |
| | 思考・判断・表現 | 47.0 | 52.7 | 51.9 |
| | 主体的に学習に取組む態度 | 37.2 | 42.4 | 41.7 |




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|---|---|---|
| 物質・エネルギー | 平均正答率は，県の平均より低い。<br>○電気のはたらきの設問で，乾電池の向きを入れかえると車の進む向きが逆になることを理解している児童の正答率は，県平均より高い。<br>○物の体積と温度の設問で，空気を温めると体積の増えることを理解している児童の正答率は，県平均より高い。<br>●物の体積と温度の設問で，温度による物の体積の変わり方を利用したものを選択肢の中から選ぶことができた児童の正答率は，県平均よりかなり低かった。事象や結果がどのように生かされているかを考えることに課題がある。<br>●水のすがたの設問で，予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想することができた児童の正答率は，県平均よりかなり低かった。既習の内容や生活経験をもとに，根拠のある予想や仮説を発想することに課題がある。 | ・事象や結果が生かされているものや生活行動などを見つけ，どのように生かされているかを考える場を設け，理解を深めるようにする。<br>・身の回りにある物の仕組みに疑問をもたせ，身に付けた知識をもとに予想したり，理解したりする経験を積み重ねるようにする。<br>・既習の内容や生活経験をもとに，根拠のある予想や仮説を立てたり，それについて話し合ったりするような授業展開を心掛ける。<br>・児童の疑問に基づいて検証する機会を必要に応じて設けるようにする。 |
| 生命・地球 | 平均正答率は，県の平均よりやや低い。<br>○動物の体のつくりと運動の設問で，腕を曲げた時の筋肉のようすを理解している児童の正答率は，県平均をより高い。<br>○天気のようすと気温の設問で，記録温度計の記録から，天気の変化を推測することができる児童の正答率は，県平均より高い。<br>●季節ごとのサクラの成長の様子や季節ごとのツバメの活動の様子に関する問題では，正答率がいずれも県平均より低い。季節ごとの植物の成長の変化や動物の活動の変化について，十分理解しているとは言えない。 | ・季節ごとの身近な植物の成長や動物の活動などについて，観察記録をタブレットPCで撮影し，蓄積していくことで，季節や時間によって変化する様子を児童がこれまで以上に実感をもって捉えられるようにする。<br>・自然現象を体験する機会を多く設けたり，デジタルコンテンツを利用したりするなど，実感を伴った知識が身に付けられるようにする。 |
| | | |

# 宇都宮市立西が岡小学校 第５学年 児童質問紙調査

**★傾向と今後の指導上の工夫**　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれる」と肯定的に回答した児童の割合は98.5%で，県や市の平均より高い。このことにより，教師が児童の頑張りや成長を見落とさずに声をかけていることが分かる。引き続き，児童の良さを見取り声を掛けることで，児童の学習意欲を向上させたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と回答した児童の割合は92.5%で，県や市の平均より高い。自力解決への意欲を認めつつ，学び合う姿勢も育てていきたい。

●「授業で分からないことがあると，先生に聞くことができる」と肯定的に回答した児童の割合は58.2%で，県や市の平均より低かった。このことより，コミュニケーション能力や語彙力に課題をもつ児童が多いことがうかがえる。児童同士で考えや思いを伝え合う機会を積極的に増やしたり，伝え方の手段の例を示すなどして，コミュニケーション能力の向上を図りたい。

●「国語の学習は好きですか」，「国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いている」，「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている」の設問では，全て県や市の平均より低かった。これらの回答から，国語科への苦手意識を感じる。今後，読書活動に力を入れるなどして国語に親しむ時間を増やし国語の楽しさを味わう活動を意図的に増やしたい。また，家庭にも親子読書などを呼びかけて連携を図りたい。

# 宇都宮市立西が岡小学校（第４・５学年共通）<br>学力向上に向けた学校全体での取組

**★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること**

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| 学習意欲を高める指導の工夫 | ○興味を高める導入や課題提示の工夫<br>○教科的横断的な視点で，各教科等の関連付けを工夫<br>○体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入<br>○自力で課題解決にあたる時間の確保<br>○ペア学習，グループ活動など最適な学び合いの場を設定し，対話による課題解決の場の工夫<br>○目標や内容，個人の理解度に応じた多様な学習形態の工夫<br>○ICT機器や一人一台端末，図書等の効果的な活用 | ・4年生は，「疑問に思ったことは分かるまで調べたい」，「進んで学習に取り組んでいる」と肯定的に回答している割合が，市・県の平均より高い。また，「国語や社会で分からない言葉があるときは，辞書や地図帳を使って調べる」の割合も高く，学習意欲の高さがうかがえる。<br>・4・5年生ともに，「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」，「授業を集中して受けている」について肯定的に回答している児童の割合が高く，自力で課題解決にあたる時間が確保され，集中して取り組んでいる様子がうかがえる。<br>・4・5年生ともに，「授業では，話し合う活動をよく行っている」と肯定的に回答している割合が市・県の平均より高く，対話による課題解決の場が多く設けられていることが分かる。<br>・具体物を使用して体験的な学習を積極的に行った結果，4・5年ともに算数の図形の問題において正答率が高かった。<br>・理科の学習においては，1人1台タブレットを活用し，実験・観察の記録を写真などを蓄積することで，様子の変化や実験の結果を児童が実感をもって捉えられるようになってきた。 |

| | | |
|---|---|---|
| 分かる授業を目指した授業力の向上 | ○主体的・対話的で深い学びの実現に向け，「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル（つかむ，考える・つなぐ，まとめる，ふりかえる）」を取り入れた授業の実施<br>○児童への言葉掛け，学習方法，教材，AI型学習ドリルなど，個に応じた支援の工夫<br>○課題提示，教材提示，発問の工夫（特別支援教育の視点を入れる。）<br>○児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上<br>○授業の終末で学習内容を振り返り，学んだことを共有する場の設定 | ・4年生は，「授業のノートに学習のめあてとまとめを書いている，授業の最後に振り返る活動を行っている」と肯定的に回答している割合が，市・県の平均より高く，「宇都宮モデル」や「西が岡スタイル」授業のスタイルが習慣化しつつあることがうかがえる。<br>・4・5年生ともに，「先生は学習のことについて褒めてくれる」と肯定的に回答している割合が，市・県の平均より高く，個に応じた支援が工夫されていることがうかがえる。<br>・国語では，AIドリルや問題集，問題プリントなど様々な学習形態で漢字を繰り返し練習させることにより，4・5年生ともに漢字の読みについて正答率が高い。<br>・算数では，「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル」を取り入れた授業を実施し，繰り返し学習ドリルに取り組んだため，4・5年ともにデータの活用問題において正答率が高い。 |
| 基礎学力の定着と家庭学習の習慣化 | ○各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方，発言の仕方などの繰り返し指導<br>○朝の学習の時間の効果的・計画的な活用<br>○単元や学期ごとに復習する機会の設定<br>○個人差に応じた適切な分量・内容の宿題，自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化<br>○「学習チャレンジ週間」の実施による，家庭と連携した学習習慣の定着と意欲の向上<br>○夏期学習会（学習ボランティア）<br>○学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動 | ・4年生は，「家で学校の宿題をしている」，「自分で計画を立てて，予習や復習，自分で考えた学習をしている」と肯定的に回答している割合が，市・県の平均より高い。家庭学習の習慣が身に付いてきている児童が多い。<br>・5年生は，「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」，「学校の宿題は，自分のためになっている」について，ほぼ全員が肯定的に回答している。個人差に応じた適切な分量・内容の宿題により，家庭学習が習慣化されていることがうかがえる。<br>・4・5年生ともに，「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができている」，「クラスは発言しやすい雰囲気である」について肯定的割合が市・県の平均より高い。よく話を聞き，進んで発言する望ましい学習習慣のもと，授業が進められていることが分かる。 |